

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4795500042		
法人名	有限会社 新正クリーンサービス		
事業所名	グループホームみなみ		
所在地	沖縄県宮古島市平良字下里3107番地364		
自己評価作成日	平成24年12月26日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyoVoCd=4795500042-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyoVoCd=4795500042-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成25年1月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるように衣食住は、勿論のこと、自分で出来る事をみつけて家庭的な温かなゆったりした雰囲気作り。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、道路から建物までの引き込み道の両側に季節の植栽がある。敷地内には、天然記念物宮古馬2頭を市より受託飼育し、小学校に隣接していることもあり、下校時には子供たちが度々立ち寄る等、利用者の心む環境となっている。食事は、専任職員が3食調理し、職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。利用者への支援ではプライバシーへの配慮がなされ、昨年ステップとなっていた理念の見直しや災害対策の年2回の避難訓練等が実施されており、サービスの質の向上に取り組まれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年3月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者や職員がいつでも見える場所、目の高さに合わせ理念を掲示、月1回のミーティングでも理念について話あっている。	理念は昨年施設長が独自で作り替え、地域密着型の意義を踏まえた内容となっている。理念は、掲示や月1回の職員会議で共有し、「笑顔で生活出来る環境」を目指す内容となっており、職員も笑顔でケアを行うよう、日頃から心がけ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の敬老会や公民館の行事等に参加し交流を深めている。	自治会に加入し、自治会長から行事等の連絡があり、利用者は敬老会等に参加している。中学校の運動会に招待されたり、小学生や幼稚園児が下校時に宮古馬を見に来たついでに事業所にも寄り、職員をひまわり、ゴーヤとあだ名をつけて呼ぶ等、事業所になじんでいる。高校の音楽教師が度々コンサートを実施する等の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会など利用しながら地域の人々に向け発信しており、適宜利用者も交え意見を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催しています。	運営推進会議は、利用者や家族、行政職員、自治会長、知見者が参加し4回実施されている。報告事項として行事等活動、職員研修となっており、利用者の利用状況や事故、ヒヤリハット、外部評価結果等の報告が記録から確認が出来ない状況であった。	指定基準で会議は2か月に1回以上年間6回の実施が義務となっている、さらに報告事項についても利用状況や事故、外部評価結果の報告等の実施が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回、市役所に行き、ケースワーカーに状況を報告しています	毎月1回程度、市の担当に状況報告はしているが、主に電話連絡が多い。担当と相談しやすく、関係性が図られている状況である。今回、行政から認知症キャラバンメイとの演習依頼があり、協力関係を築き取り組んでいることが伺えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のその日の気分や状態をキャッチし、見守り徹底しているので、玄関の施錠含め身体拘束はしていない。4点柵について職員間で話し合い使用しない介護に努めている	玄関は出入りできる状況にあり、外出の好きな利用者については、本人の様子を確認しながら職員と一緒に付き添うようにしている。拘束をしないケアによるリスクについて、家族への話し合いの取り組みはこれからである。	

沖縄県（グループホームみなみ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の職員会議で高齢者虐待防止関連法について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回権利擁護職員の方々とは面談を行っている。文書などで職員への理解などを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族と面談を行い、十分な説明や情報提供を実施し、双方の理解及び合意のもとで契約を締結している。また解約にもいつでも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に開催し、記録の上で改善を図り、施設全体に周知している。	利用者からの要望等は、受診時の送迎や入浴介助等で一対一の際に聴く機会としている。利用者から「部屋で歩行訓練がしたい」との意見があり、平行棒を設置した事例がある。家族からは毎月の支払いでの来訪時に聴く機会としているが、殆ど意見等はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回（ほぼ月の20日）にミーティングの機会を設け、情報の共有や利用者の介護状態の把握や健康状態改善に役立てている。家族からの要望も反映させている。	職員の意見は、毎月の職員会議で意見を聞く機会としている。これまでに薬の投与の方法やケアの統一等、意見を反映させた事例がある。事業所は単独のため職員の異動はないが、昨年、職員が数名退職し、対応に苦慮した状況があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に意見を反映させ改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力及び適性に基づき、適宜研修に参加させている。また、研修後、成果をミーティングで情報共有したり、腰に負担をかけない移乗（スーパートランスファー）を学習し技能向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、市内の同業者との交流を図り相互の敬老会や不定期のレク、慰問の機会、さらには情報交換も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや訴えに耳を傾け本人の思いや不安を受け止めその人に合った対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時に家族の困っている事を把握し利用者と家族にとって何が望ましいか話しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内で出来るサービスを説明し必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一年の節目ごとに行事を行い、同じ時間をすごしている。また写真も撮りながら職員とともに過ごし、本人の思い出の一部となるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との信頼関係を築くうえで、本人の思いを電話で伝えたり、声を聞かせたり家族の訪問回数増につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母の日や敬老会などの大きなレクレーション等は、ご家族に声掛けし、出席を促している。また写真なども部屋に貼り、良い思い出を利用者と共有している。	事業者は、利用者等の意向を受け、一人ひとりの馴染みの理美容に継続して出かけることを支援している。さらに、宗教関係者(シスター)が月1回定期的に来訪する等、関係を継続している利用者もいる。関係性の把握については、主に家族からとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が家族という認識をもてるようにし孤立しないようにさせ、常に食事は同じテーブルですするなど互いの絆を深めるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院やお店などで家族に会ったときなどは近況を聞き、相談など受けたり時には面会に行く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者部屋や一対一になって希望やニーズを知るように話せる雰囲気作りをやり、把握し、困難な場合は家族や職員間で検討している。	意向の把握については、日頃の支援の場で利用者本人から把握しており、意思表示が困難な場合は家族から聞いたり、本人の表情等を見ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人自身から思いで出など把握しようと努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少なくとも一時間に2回から3回は利用者確認、声かけはするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一日の気づきで職員間で意見、アイデアを即実践できるように最大限努めている	現在の介護支援専門員は、昨年8月から勤務しており、それ以前の介護計画書の確認が出来ず、状況に即した見直し及びモニタリングは確認出来なかった。	介護計画の実施やモニタリング及び利用者の状況に即した介護計画の見直しが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は常に努めている。介護計画の見直しの細かい部分までは至らないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の突発な要望(病院行きたい)、会いたい人への面会など余裕があれば常にその時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校があるので、極力交流して写真を撮り、近隣の人や新聞とも協力し合っ、地域の幼稚園、小学校とも、より一層ふれあう機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続し受診支援している。また適宜、転院やセカンドオピニオンなど対応に柔軟性を持たせている。	利用者8人が内科の訪問診療を受けており、精神科や眼科等の受診も職員が同行している。受診後の家族への情報の報告は来訪時に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時などに医師や看護師に判断の難しい状態の対応やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、週2回は訪ね不安解消に努めている。退院時の目安や今後の生活アドバイスや家族も含め受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員と終末期や看取りをどうするか話し合い、終末医療の手配をしている。(最近も入院あり)	重度化や終末期の方針はなく、現在のところ取り組んでいない。利用者に状況変化がある場合は、入院を勧めている状況である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自実践力の修練に努め、事故や急変時に対する最大限の努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	直近の記録あり、消防や公的機関と連携して災害訓練をおこない、災害時の避難、誘導、地域との連携につき実践力を培っている。	避難訓練については、5月17日、12月11日の2回消防署の指導の下、実施している。訓練には地域住民の参加協力もある。消防への火災報知器や消火器、スプリンクラー等が設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁やオムツ交換はさり気なく居室誘導して行っている。その際プライドを傷付けないよう配慮し、利用者への言葉使いについてもはなしあっている。	利用者に対して優しい言葉使いで信頼関係を保つことが一人ひとりの尊重につながる対応と考え、入浴や排せつ介助時は同性介助を基本としている。出来ない場合の声かけに配慮することで、プライバシーを損ねない介助を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の生活パターンを把握し焦らすことはせず、各自の好みに合わせられるような体制を取っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、外出、食事等本人の気持ちを最優先し、個々のペースに合わせた日々の生活を共にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回は外出を兼ねて美容院へ行き、髪をセットしたり、好みの床屋で散髪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を取り入れて調理している。3ヶ月に1回の外食も取り入れている。片づけ出来る方にはお願いしてやってもらうようにしている。	食事は3食とも事業所内で専任職員が調理し、職員も利用者と同じ食事を摂っている。利用者は、食材の買い出しや材料の下ごしらえ、食器洗い等、その日の体調に合わせて参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや体調、摂取量を把握し食べ過ぎないように工夫している。水分摂取量には十分注意し、脳こうそくなどの疾病のリスクに注意している。		

沖縄県（グループホームみなみ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。自分で出来る方は自分でやって頂き、出来ない方は介助にて対応するなど、柔軟性を持たせ、肺炎や虫歯の予防に極力努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の個々の行動パターン等で読みとるようにしたり、体調に応じた声かけを行ない、失禁を減らし本人の清潔保持、羞恥心への配慮を行っている。	排せつ自立者やトイレ介助者、おむつ排せつの利用者があり、介助を要する利用者の排せつパターンを確認しながらトイレ排せつを支援している。夜間は、ポータブルトイレ等での対応となっている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや芋、果物等繊維質を多く含む食品を食事の材料に多めに取り入れ、薬剤の使用は最低限にして、利用者が出来るだけ自然排便できるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方等、本人の希望に応じ対応している。入浴そのものを嫌がる方もいるが、日中で落ち着いているときに声かけし誘導している。対応困難時はムリをせず、やむを得ないときは職員同士意見を出し合って最良の方法を日々、研究している。	入浴は利用者の希望に応じて実施し、入浴時間も職員の少ない夜の対応は難しいが、希望に合わせて毎日でも行っている。入浴の声かけをいやがる利用者には、1日おきにする等、柔軟な対応を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のスペースを大事にし居室で休みたい方は居室で、ソファが好きな人はソファで対応し、本人の気持ちを第一に配慮しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人記録にはさみ、職員全員で把握している。薬の変更がある場合は申し送りや業務日誌にも必ず記録し情報のもれを防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブが好きな方は職員と共に買い物に出かけ、畑が好きな方はホーム内の畑へ行かれたり、縫い物が好きな方には雑巾を縫ってもらったり本人が今までされてきたをさせるよう楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事や行事、本人の希望に沿うようにし、買い物途中、自宅付近を通る時など自宅に寄り、家族の方や近所の方と話できるよ うつながりを維持している。	気分転換等を図る目的で、2週間に1回はドライブを実施し、公園や海、橋の架かっている離島に出かけている。個別の外出としては、日用品やビタミン剤の購入等で外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所としては、お金の預かりはせず、権利擁護を利用するか、家族が管理している。少額の金銭のみ個人でも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書類に関しての連絡などは職員が対応している。必要に応じ、手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、日中は明るく風通しもよい。テレビが観たい方はテレビ前ソファーでくつろぎ、タバコが吸いたい方は喫煙所も設置している。	共用空間は広々として通風や採光もよく、一角に畳間も設置され、また、ソファーの配置もよく、利用者は、テレビを見ながらゆったりとしている。また、洗濯物干し場としてのテラスや建物の外に喫煙場所も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファーをホール3カ所に設け、利用者が好きな場所、楽に過ごせる場所、気のあった利用者同士会話が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用してきた家具や愛着のある物をもって来てもらい、本人が安心して不安感がないように心掛けている。	居室は、クローゼットとベットが備え付けられ、椅子やカラーボックス、整理タンス、記念の写真、湯沸かしポット等が持ち込まれ、独自で好きなコーヒーを入れて飲まれる習慣の利用者もいる。2部屋はフローリングの部分が畳敷きになっており、和風的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄が出来る方はトイレ近くの居室を用意し、ベランダへよく行く方には手すりを延長して取り付けるなど工夫している。		